



明けましておめでとうございます。
 輝かしい年を迎え、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。
 昨年皆様方には瀬戸会館の運営にご支援、ご協力を頂き誠に有難うござい
 ます。当館がこれまで積み上げてきた同和問題をはじめとするあらゆる人権問題の
 解決を目的とした営みをさらに前進させるよう、地域や利用者の皆さんにとって
 必要とされる、魅力のある瀬戸会館をめざし、職員一同「やる気と元気」をモ
 トーに何事にも主体的に取り組んでまいります。
 本年もどうかよろしくお願い申し上げます。



12月8日の日曜日、瀬戸会館で大掃除を行いました。前
 の年は館の内外とも改修工事中だったため、実質2年ぶり
 の大掃除。ご家族団らの時間を割いて、地元自治会をは
 じめ当館で日頃活動されている各教室やサークル、特に社
 友会の大軍団が加わり68名のご参加をいただきました。

不順だった天候もこの日は晴天！お天道様も応援して
 くれたようです。翌日館に足を踏み入れ、各部屋の戸を開
 けたとたん「ワッ明るい！」、というのが実感でした。窓
 ガラスは透明でピカピカ、網戸も水道のホースからの水圧
 でバッチリきれい、ブラインドも細長くうすい材質の汚れ
 を一枚一枚布でふきとるといふ具合。そこで、朝の光が大
 手を振って部屋の中に飛び込んでくる。それだけではな
 い。うれしくなって電灯のスイッチを入れてみると、これ
 また以前よりグッと明るい。たしか、蛍光灯を保護す
 るカバーを天井からはずして、たまったホコリをていね
 いにふきとっていた。普段できないエアコンの汚れを、若い
 人が部品などを取りはずして掃除機でクリーンに。用意し
 た脚立がどうやら不足気味だったようだ。トイレも入念
 に、和室や調理室も見違えるようになった。

大変だったのは、晴天とはいえ外での除草作業。みな
 さん腰をかがめて、とにかくとことん徹底する姿が印象に残
 った。おかげでしぶとい雑草は一掃された。

一段落して、きれいになった1階の部屋に集合。ゆめじ
 ゆく会からのささやかなお弁当とお茶で、しばし歓談。
 みなさん本当にありがとうございました。

みなさん、ありがとうございました



サークル訪問 紙バンド教室

木曜日には、元気な女性たちが材料や作品を手当
 館に集まってくる。皆さんは小物入れ、バック、フル
 ツカゴなど思い思いの作品をつくるのだが、その材
 料は、もともとは紙製のうすい帯状の荷造りヒモ。ど
 の作品も出発点は底の部分づくりから。まず縦と横に
 一本置いて十文字をつくり、それに縦横一本ずつ加え
 てゆき面にする。その都度ボンドで接着するのだが、
 動かないように洗濯バサミが大活躍。一定の面積に達
 したら、そこから起こして縦にのぼして深みをつくる、
 という案配。仕上がりにはニス塗ってツヤをだし、
 耐久性を求めるといふ。

手順を示したテキストで確かめながらの作業だが、
 ひんぱんに皆さんの手が上がり、指導する竹内さんは
 大忙し。それだけではない。お互いが教えあい、尋ね
 あい、一人とぼしてその先の仲間にも助言する。する
 と笑顔の返事がもどってくる。気がつけば、ひざの上
 で作業する人、机の上での人、立ったままで大きな作
 品に向かう人もいる。この日の9人の皆さんは明るく、
 真剣な表情で、熱気さえ伝わってくるサークルでした。



瀬戸会館だより
 平成26年1月号
 新居浜市瀬戸会館
 〒792-0821
 新居浜市瀬戸町7-30
 E-mail
 seto@city.niigama.
 ehime.jp
 TEL 0897
 41-5859
 (FAX 兼用)

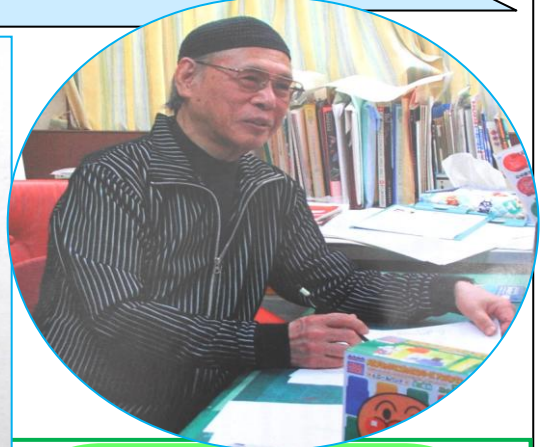
1月公演
回転木馬
おはなし会
 1月15日予定
 10:00~11:00
 瀬戸児童館

きてみんかい
来観会
 1月は
 16日(木)
 19:30~

1月の主な
行事予定
 11日(土) —
人権のつどい日
10:00~11:30
 講演会
 「ひとつぶの涙」
 講師
 氷見交友会館
 館長
 村上 進さん
 月2回(木) —
 絵本・紙芝居
 お話し会
 泉川小学校放課
 後児童クラブ
 15:30~

やなせたかしさんからの メッセージ

人権あらかると



「人権のつどい日」にひろう



ひとかこのせでいちばんうれし
ひとかひとをよるこぼせること
歌うのも絵を描くのも
詩をつくるのもパンを焼くのも
畑で野菜をつくったり
花を咲かせたり
海で漁をしたりするの
ひとかひとをよるこぼせるため
ひとかひとを悲しませたり
いじめたり差別したりすれば
そのひとも傷つく
決してうれしくはない
ひとかひとをよるこぼせることか
いちばんのよろこび
いちばんのしあわせ
それが生きていけると
いうことだから

やなせたかし
書

『アイユ』2007年5月号より

小・中学校人権・同和教育研究大会開く

新居浜市の小・中全教職員が参加する標記の会が11月21日(木)に開かれた。教育委員会からの案内状には「昨年度から、人権・同和教育の一層の推進を図るため、学校の授業を市民の皆様方に広く公開いたしております。」とある。授業を公開する学校は、小学校は金子小学校など5校、中学校は川東中学校など3校。研究主題には「…人権意識を高め差別をなくそうとする児童生徒を育てる教育実践はどうであればよいか。」とうたわれている。

南中学校では、1年生が幕末に岡山藩で起きた『渋染一機』—渋染の着物以外は禁止、傘・下駄の使用禁止、百姓に出会ったときはハダシになっておじぎせよ、などと命じられた被差別部落の人々が撤回を求めて立ちあがる一の教材、3年生は若い2人が結婚差別に立ち向かう『峠』を題材にした授業。2年生は『解放令～5万日の日のべ～』に取り組んだ。明治4年8月に「身分・職業ともに平民と同様」と太政官布告が出されるが、その数日後大庄屋からこの話は「5万日のひのべになるそうな。」とウソを告げられる。5万日とは、およそ140年、2008年がその年にあたる。

授業では「大庄屋たちはなぜウソをついてまで解放令を認めようとしなかったのか。」と問い、生徒たちは自分の考えをまとめて先ずメモにする。そのあと次々と意見を述べていく。さらに「解放令が出て、差別がなくならなかったのはなぜでしょうか。」と続き、生徒たちの鉛筆が一斉に動き出す。授業者の山崎先生は生徒たちの表情を見極めながら、ずんずん心に迫っていく。「そもそも人間には上も下もない、人間の価値に上も下もない、ですよ。ね。」「自分はこれから、どのようにしていきたいですか。」とたずねながら、一人ひとりの心の中から差別心を取り除く大切さに気付かせていった。



12月11日、西条擁護委員協議会の坂上禎規さんの講演を聴いた。最初に金子みすゞの詩「星とたんぽぽ」を参加者全員で声に出して読むことから始まる。坂上さんは講演の前段で人権擁護委員の活動と役割について話された。活動には主に「人権相談」「被害者の救済」「人権啓発」の3つがあり、その人権相談の中に「常設相談所」が設けられ、女性の人権ホットライン(Tel.0570-070-810) や子どもの人権110番(Tel.0120-007-110) などがあるという。

後段では詩人金子みすゞの詩を用いながら「考えよう 相手の気持ち 育てよう 思いやりの心」のテーマで話された。『大漁』という詩の、「朝焼け小焼けだ 大漁だ/大羽鰯の 大漁だ。」に続く部分で、みすゞは自分の目を、心を広げて見えないものを見ようとしている、と話す。「濱は祭りの やうだけど/海の中では 何萬の/鰯のとむらい するだろう」。大漁で喜ぶ漁師や周りの人たち、喜んでいる人々のおかげに弔いをしなければいけないか弱いイワシたち。みすゞはイワシを魚と見ていない。人と見ている、と。

そして坂上さんは「相手の気持ちとか、思いやりの心だとかは目に見えないものですねえ。人間はそういったものを見せるために、言葉というものを持っているんですが、その言葉の全部がその気持ちと、心とつながっているかという、むつかしい」。さらに『星とたんぽぽ』の中の「昼のお星は眼に見えぬ/見えぬけれどもあるんだよ/見えぬものでもあるんだよ」の流れに沿って、「『見えないものを見る』ということなんですが、『みえないところに、大事なものがあつたよ』ということ、みすゞが教えてくれていると思う。」などと、やわらかい表現の中に奥深いお話が続いた。